

News Release

2021年1月28日
独立行政法人製品評価技術基盤機構
NITE（ナイト）
東北支所

冬の死亡事故に注意！除雪機で19件、一酸化炭素中毒で17件 ～除雪機の安全装置を正しく使う、発電機は室内で使用しない、 温水機器や暖房器具使用時はこまめに換気する～ (東北版資料)

1. 事故の発生状況

今冬の豪雪や大寒波の影響などで、東北地方でも一酸化炭素中毒による死亡事故が発生しています。

2010年度から2019年度までの10年間に、NITEに通知のあった全国の製品事故情報（※1）のうち、除雪機などでの事故、積雪の影響や凍結により発生した事故（以下、「雪・凍結に伴う事故」という）は合計224件（※2）あり、一酸化炭素中毒の事故は合計69件（※2）ありました。

東北地方6県（青森県、岩手県、秋田県、山形県、宮城県、福島県）での同10年間の雪・凍結に伴う事故は36件、一酸化炭素中毒の事故は3件ありました。

被害状況は、雪・凍結に伴う事故は、死亡5件、重傷6件、拡大被害14件、製品破損11件で、一酸化炭素中毒の事故は、死亡1件、軽傷2件でした。

東北の冬は除雪機を利用する機会が多いですが、排雪口に手を入れて起こる事故や、ローター部分に巻き込まれる事故が発生しています。また、一酸化炭素中毒事故については、締め切った部屋やテントなど換気の悪い場所で使用して、一酸化炭素中毒事故が発生しています。

今シーズンは、豪雪や大寒波の影響で積雪が多く、一部の地域では停電も発生しました。その中では非常に便利な除雪機や発電機ですが、取扱説明書を確認するなど注意して、事故を未然に防ぎましょう。

（※1）消費生活用製品安全法に基づき報告された重大製品事故に加え、事故情報収集制度により収集された非重大製品事故やヒヤリハット情報（被害なし）を含める。

（※2）重複を除いた事故発生件数。



(イメージです)

表1 雪・凍結に伴う事故の県別の年度別事故発生件数

発生年度 \ 発生県	青森	岩手	宮城	秋田	山形	福島	合計
2010年度	0	0	2	0	2	0	4
2011年度	1	0	0	1	2	0	4
2012年度	1	1	0	1	2	1	6
2013年度	0	0	1	0	0	0	1
2014年度	1	1	0	0	2	2	6
2015年度	1	1	1	1	0	0	4
2016年度	0	0	1	1	1	1	4
2017年度	3	0	0	1	0	1	5
2018年度	2	0	0	0	0	0	2
2019年度	0	0	0	0	0	0	0
合計	9	3	5	5	9	5	36

表2 一酸化炭素中毒事故の県別の年度別事故発生件数

発生年度 \ 発生県	青森	岩手	宮城	秋田	山形	福島	合計
2010年度	0	0	1	0	0	0	1
2011年度	0	0	1	1	0	0	2
2012年度～2019年度	0	0	0	0	0	0	0
合計	0	0	2	1	0	0	3

表3 雪・凍結に伴う事故の県別の被害状況別事故発生件数

被害状況 \ 発生県	青森	岩手	宮城	秋田	山形	福島	合計
死亡	0	1	0	0	3	1	5
重傷	3	0	0	1	2	0	6
軽傷	0	0	0	0	0	0	0
拡大被害	3	2	4	2	0	3	14
製品破損	3	0	1	2	4	1	11
被害なし	0	0	0	0	0	0	0
合計	9	3	5	5	9	5	36

表4 一酸化炭素中毒事故の県別の被害状況別事故発生件数

被害状況 \ 発生県	青森	岩手	宮城	秋田	山形	福島	合計
死亡	0	0	1	0	0	0	1
重傷	0	0	0	0	0	0	0
軽傷	0	0	1	1	0	0	2
拡大被害	0	0	0	0	0	0	0
製品破損	0	0	0	0	0	0	0

被害なし	0	0	0	0	0	0	0
合計	0	0	2	1	0	0	3

表5 雪・凍結に伴う事故の県別の被害状況別事故発生件数

原因区分		発生県						合計
		青森	岩手	宮城	秋田	山形	福島	
製品に起因する事故	A: 設計、製造又は表示等に問題があったもの	0	0	1	0	1	0	2
	B: 製品及び使い方に問題があったもの	0	0	0	0	0	0	0
	C: 経年劣化によるもの	1	0	0	0	0	0	1
	G3: 製品起因ではあるが、その原因が不明のもの	1	0	0	0	0	0	1
製品に起因しない事故	D: 施工、修理、又は輸送等に問題があったもの	1	0	0	0	1	2	4
	E: 誤使用や不注意によるもの	4	1	1	3	4	1	14
	F: その他製品に起因しないもの	0	0	0	1	1	0	2
G1、G2: 原因不明のもの		2	2	3	1	2	2	12
H: 調査中のもの		0	0	0	0	0	0	0
合計		9	3	5	5	9	5	36

表6 一酸化炭素中毒事故の県別の被害状況別事故発生件数

原因区分		発生県						合計
		青森	岩手	宮城	秋田	山形	福島	
製品に起因する事故	A: 設計、製造又は表示等に問題があったもの	0	0	0	0	0	0	0
	B: 製品及び使い方に問題があったもの	0	0	0	0	0	0	0
	C: 経年劣化によるもの	0	0	0	0	0	0	0
	G3: 製品起因ではあるが、その原因が不明のもの	0	0	0	0	0	0	0
製品に起因しない事故	D: 施工、修理、又は輸送等に問題があったもの	0	0	0	0	0	0	0
	E: 誤使用や不注意によるもの	0	0	2	0	1	0	2
	F: その他製品に起因しないもの	0	0	0	1	0	0	1
G1、G2: 原因不明のもの		0	0	0	0	0	0	0

H:調査中のもの	0	0	0	0	0	0	0
合計	0	0	2	1	0	0	3

2. 主な事故事例

○2011年1月8日 除雪機(歩行型)(山形県、男性、年齢性別不明)

事故内容: 自宅倉庫内で、男性が除雪機に右足の太ももを巻き込まれて死亡した。

事故原因: 非常停止スイッチを装着せず、点検時にエンジンを停止していなかったため、足を滑らせた際に回転しているローターに巻き込まれたものと推定される。

なお、取扱説明書及び本体には、作業中は必ず非常停止スイッチを衣服に装着する旨の注意表示が記載されていた。

○2018年2月28日 除雪機(歩行型)(青森県、40代男性)

事故内容: 当該製品を使用中、当該製品の排雪口に詰まった雪を取り除こうとしたところ、左手指を負傷した。

事故原因: 除雪作業中、使用者が排雪口に詰まった雪を取り除く際、備付けの棒を使用せず手で雪を取り除こうとしたため、惰性で回転していた排雪口内の刃に指が接触し、負傷したものと推定される。

なお、本体及び取扱説明書には、「排雪口内の雪を取り除くときは、エンジンを停止し、オーガとブロアの回転が完全に停止したことを確認してから、必ず備付けの雪かき棒を使用する。」旨、警告表示されている。

○2017年1月15日 開放式ガス瞬間湯沸かし器(秋田県、40歳代、女性)

事故内容: 当該製品を点火したところ、当該製品を焼損する火災が発生した。

事故原因: 使用者が水抜きをせず、凍結状態で点火操作を行ったため、熱交換器に水が流れず空だき状態となり、さらに使用者が乾いたタオルを排気口の上にかぶせたことでタオルが焼損したものと推定される。

なお、取扱説明書には、「火災の原因になるため、換気口や吸気口をタオル等で塞がない。冬期は、凍結防止のために水抜きを必ず行う。」旨、注意表示されている。

○2011年3月20日 発電機(宮城県、年齢性別不明)

事故内容: 当該製品を使用中、当該製品及び周辺を焼損する火災が発生した。

事故原因: 当該製品を屋内で使用し、換気していなかったため、排ガスにより一酸化炭素中毒に至ったものと考えられ、製品に起因しない事故と推定される。

なお、本体には、「排ガス中毒の恐れがあるため、屋内など換気の悪い場所で使用しない。」旨、記載されている。

○2012年3月7日 発電機(携帯型)(秋田県、年齢性別不明)

事故内容: 工事現場のテント内で当該製品を使用して作業中、一酸化炭素中毒が発生し、1名が軽症を負った。

事故原因: 換気が不十分なテント内で当該製品、ジェットヒーター及び練炭を使用したことにより一酸化炭素中毒になったものと考えられる。

○2012年2月23日 石油ストーブ(宮城県、40代男性)

事故内容: 石油ストーブを消火して就寝中、異臭がしたので確認したところ、消火されずにぼんやりと火がついており、目やのどに痛みを感じた。

事故原因: 機器の消火動作に異常はみられないことから、消火操作が不十分であったため、不完全燃焼の

安全とあなたの未来を支えます

まま燃焼が継続し、異臭が発生したものと推定される。

なお、取扱説明書には「あまり火力を弱くすると、においや一酸化炭素が多く発生し、しんにタールが付着します」と、記載されている。

3. 製品事故の実験映像につきまして

製品事故の写真及び動画をご希望の場合は、下記の問い合わせ先までご連絡ください。

なお、映像をご使用の際、クレジットは「製品評価技術基盤機構+NITE のロゴ」としてください。

【編集人のつぶやき】

記録的な大雪が続く今冬は、去年の少雪とは真逆で、除雪作業中や雪による停電に関する事故、更には地吹雪が原因とみられる多重衝突の交通事故など、雪に関する痛ましい事故を多く耳にする冬となりました。

近年まれな大雪ですので、除雪作業や雪下ろしはどうしても、若干無理をしてでも早く終わらせてしまいたいと思うことが多々あるかと思います。寒さも厳しく、屋外での作業は皆様ご苦労されているかと思います。例えば除雪機ですが、雪詰まりを取り除く時は必ずエンジン停止させる、また、屋根にはしごをかける際は、はしごの足下を今一度確認して、2人以上で作業するなど、急がば回れで安全第一での作業に心がけたいと思います。特に、除雪機をはじめ燃焼器具などの取扱説明書は、ときどき確認して、安全に使うよう心がけましょう。

ほかにも、給湯器や暖房機器を使う時の換気が十分かどうか、発電機を屋内などの換気の悪いところで使用していないかなど、あぶないところに気づくよう安全を確認して、事故を未然に防ぎ、今年の大雪を乗り越えましょう！！

(本件に関する問い合わせ先)

〒983-0833 宮城県仙台市宮城野区東仙台 4-5-18

独立行政法人製品評価技術基盤機構 東北支所

ナイト

(略称:NITE)

担当:菊地(きくち)、齋藤(さいとう)、照井(てるい)

電話:022-256-6423

E-mail:jiko-tohoku@nite.go.jp

NITE
ホームページ

YouTube
公式チャンネル

Twitter
公式アカウント

